

2006年度冬学期 GONG RENREN 教授の集中講義のご案内

本講義は、2006年度2月1日から2月14日まで、計8回程度を予定しています。前半の3～4回は、国際法と関連する中国の諸問題を概括的に紹介しています。後半の4～5回は、主に中国と日本の間における国際法上の紛争、若しくは中日間の国際法律制度の比較をめぐって、参加者に報告していただき、活発な議論を展開していこうと考えています。報告は日本語でも英語でも構いません。議論の言語は日本語です。報告のテーマおよび仮参考文献は以下のリストをご参照ください。参考文献はここに挙げたものに限らず、ほかの本を参照しても一向に構いません。

参加希望者は、下記のテーマのうち、自分のやりたいものを一つ選んで、予め準備しておいてください。報告時間は15分～20分程度の目安です。本講義の初日（2月1日）に自分の希望するテーマを申告していただきます。結果をとりまとめた上で、参加者を4つか5つのグループに分けて、報告の順番を決めたいと思います。報告の当日に必ず人数分のレジユメを持参して、参加者全員に配ってください。なお、講義の進め方や報告のやり方について、初日に皆様と相談した上で、できるだけ参加者の希望に応じて負担が過大にならぬよう、決めていきたいと考えています。

それでは、皆様のご参加を期待しています。

Gong Renren

テーマおよび仮参考文献

一般的な参考文献：

Chinese journal of international law (2002-)

Asian yearbook of international law (1993-)

テーマ1：中日間の領土紛争

Byron N. Tzou, *China and international law: the boundary disputes* (New York: Praeger, 1990)

井上清著『「尖閣」列島——釣魚諸島の史的解明』(東京：現代評論社、1972)

高橋庄五郎著『尖閣列島ノート』(東京：青年出版社、1979)

村田忠禧著『尖閣列島・釣魚島問題をどう見るか——試される二十一世紀に生きるわれわれの英知』(川口：日本僑報社、2004)

馬英九『从新海洋法論釣魚台列嶼与東海劃定問題』(台北：正中書局、1986)

鞠徳源『釣魚島正名——釣魚島列嶼的歴史主權及国際法淵源』(昆侖出版社、2006)

テーマ2：中日間の海洋境界紛争

Zou Keyuan, *China's marine legal system and the Law of the Sea* (Leiden: Martinus Nijhoff, 2005)

Jeanette Greenfield, *China's practice in the law of the sea* (Oxford [England]: Clarendon Press, 1992)

Greg Austin, *China's ocean frontier: international law, military force, and national development* (St. Leonards, NSW, Australia: Allen & Unwin, 1998)

山本草二、古川照美、松井芳郎編『国際法判例百選(別冊ジュリスト、No.156)』(東京：有斐閣、2001)

田畑茂二郎、竹本正幸、松井芳郎編集代表『判例国際法』(東京：東信堂、2000)

★中日間の海洋境界画定について、今までの判例を参照することが重要です。以上の判例集の中で、特に北海大陸棚事件、リビア・マルタ大陸棚事件、メイン湾海域境界画定事件を参照してください。なお、最新の判決として、*Maritime Delimitation in the Black Sea (Romania*

v. Ukraine) (<http://www.icj-cij.org/iccjwww/idocket/iru/irufame.htm>)、*Application for Revision of the Judgment of 11 September 1992 in the Case concerning the Land, Island and Maritime Frontier Dispute (El Salvador v. Honduras: Nicaragua intervening)* (*El Salvador v. Honduras*) を 参 照 。
(http://www.icj-cij.org/iccjwww/idocket/iesh/ieshjudgment/iesh_ijudgment_20031218.PDF)

テーマ3：戦後補償問題

大沼保昭著『東京裁判から戦後責任の思想へ（第4版）』（東京：東信堂、1997）

申惠丰、高木喜孝、永野貫太郎編『戦後補償と国際人道法——個人の請求権をめぐる』（東京：明石書店、2005）

松尾章一編『中国人戦争被害者と戦後補償』（東京：岩波書店、1998）

蘇智良ほか編『日本侵華戦争遺留問題と賠償問題』（北京：商務印書館、2005）

殷燕軍著『中日戦争賠償問題——中国国民政府の戦時・戦後対日政策を中心に』（東京：御茶の水書房、1996）

北岡伸一「賠償問題の政治力学（1945－59年）」北岡伸一、御厨貴編『戦争・復興・発展：昭和政治史における権力と構想』（東京：東京大学出版会、2000）

奥田安弘、山口二郎編『グローバル化する戦後補償裁判』（東京：信山社、2002）

テーマ4：靖国神社参拝問題

赤澤史朗著『靖国神社——せめぎあう「戦没者追悼」のゆくえ』（東京：岩波書店、2005）

小堀桂一郎著『靖国神社と日本人』（東京：PHP研究所、1998）

テーマ5：光華寮問題

『光華寮訴訟問題について』（東京：日中正常化、日華断交 15 年を機に「中国問題」を検証する専門家有志の會、1988）

田中則夫「光華寮事件」田畑茂二郎、竹本正幸、松井芳郎編集代表『判例国際法』（東京：東信堂、2000）

他には、中国残留日本孤児または中国帰国者の問題、中国における旧日本軍の遺棄化学兵器の問題、若しくは条約の国内適用や人権保護等に関する中日法律制度の比較も適切なテーマと考えられます。興味のある方にぜひ扱ってほしいと思います。